

令和2年11月13日

都道府県鍼灸師会 保険部長 各位

(公社) 日本鍼灸師会 健保委員会
小林潤一郎

長期・頻回施術での償還払いに戻せる仕組みについて

お世話になっています。

10/29に開催された、第22回社会保障審議会 医療保険部会 あん摩マッサージ指圧、はり・きゅう療養費検討専門委員会では長期・頻回施術に関する議論も行われました。

これは唐突に行われたのではなく、受領委任の取扱規程の項目47にある通り、「保険者が施術の必要性について、患者に確認する必要があると認められた場合について、その患者の施術について償還払いに戻すことができる仕組みを検討する」ことになっていました。

平成29年7月からは、初療日から1年以上かつ月16回以上の施術について、「施術継続理由・状態記入書」に施術の必要性和患者の状態を記載することが始まりました。

それを調査した結果をもとに、厚労省より添付の「あはき療養費の長期・頻回の施術等に関する調査結果及び検討について（案）」が提出されました。

専門委員会では施術側として、該当する患者の施術について、受領委任から償還払いに戻す仕組みは、経済的利便性を損なうペナルティ的な面もあるとして慎重に議論すべきとの主張も致しましたが、仕組みについては厚労省の原案通りに決まりました。施行日が座長預かりとなり、11/12付で「令和3年7月1日」との発表がありました。

以下は、長期・頻回の場合、保険者が償還払いに戻せる仕組みについて、添付資料からの抜粋です。

【保険者】

- ①施行日以降において、初療日から２年以上かつ直近の２年のうち５か月以上月１６回以上の施術が実施されている患者について、事前に施術回数が頻回であり、標準的な施術回数等から勘案して、施術効果を超えた過度・頻回な施術である可能性がある旨について施術管理者及び患者に通知
- ②「１年以上・月１６回以上施術継続理由・状態記入書」を確認し、併せて、施術管理者から提出させた「頻回な施術を必要とした詳細な理由」及び「今後の施術計画」を確認
※患者が施術所を変更した場合は、「初療日から２年以上」とは、変更前の施術所の初療日を基準とする。
- ③確認の結果、施術効果を超えた過度・頻回な施術が疑われる場合、施術管理者及び患者に対して通知

【施術管理者】

- ①「頻回な施術を必要とした詳細な理由」及び「今後の施術計画」を療養費支給申請書に添付
 - ②保険者からの確認の結果、患者に対して確認の必要があると判断される場合は、償還払いとしたうえで患者に対して施術の効果等を確認するので、あらかじめ患者に連絡
- 保険者は、必要に応じて同意医師や施術者に確認のうえ、療養上必要な範囲及び限度を超えた過度な施術でないと判断できた場合、受領委任の取扱いに戻すことも可能であり、その場合はあらかじめ患者に対して通知する。
- 保険者からの通知を受けた患者が、当該通知を施術管理者に示すことにより、施術管理者は、次回の請求（通知年月日の翌月の施術に係る請求）から受領委任の取扱いを開始（再開）する。

○施行期日 令和３年７月１日

添付資料の最後に、「(参考) 手続きの流れの例」があります。

施行日は3年7月1日となりましたので、この点ご理解をお願い致します。

該当する患者さんの施術については、7月1日以降保険者より施術管理者宛に「頻回な施術を必要とした詳細な理由」及び「今後の施術計画」の提出が求められますので、その患者さんに合わせ内容を記載する必要があります。

とり急ぎ、専門委員会での決定として上記をお伝えいたします。

これから始まる仕組みで、疑問点もあるかと思います。施行日まで時間があるので、各師会から問合せや質問が寄せられましたら、まとめて全国で共有するようにして参りたいと考えています。